

令和2年度第14号
(通算14号)

山形県子どもの居場所づくりサポートセンター

ネットワーク通信

発信日 令和3年 3月 17日

発行者 山形県社会福祉協議会

山形県子どもの居場所づくりサポートセンター



子どもの居場所づくり実施団体の活動紹介

新型コロナウイルスの感染が県内でも拡大しているなか、子どもの居場所を喪失しないように工夫しながら活動している団体もあります。今回は子どもの居場所づくりサポートセンターで、4つの団体へ取材に行ってきましたので、その活動内容を紹介します。

【フローラ食堂（寒河江市）】

「特定非営利活動法人やまがた絆の架け橋ネットワーク」では、毎月第3木曜日に寒河江市のフローラ SAGAE にて地域食堂「フローラ食堂」を開催しています。毎月ボランティアも含め10人程度の運営スタッフで開催しています。

現在は新型コロナの影響もあり、参加者数を制限して実施しています。2月18日（木）の開催時は2世帯が参加されていましたが、最近では平均して3～4世帯が参加されているそうです。フローラ食堂では、スタッフと参加者が一緒になり食事の配膳や会場の片づけまでを行い、全員で食堂をつくっています。ただ食事を提供するだけでなく、家族間や世帯間でのコミュニケーションを大事にし、楽しく運営しています。

運営スタッフの方からは、「子ども食堂と聞くと、社会では貧困世帯が利用するというイメージがまだまだ続いています。地域コミュニティが狭ければ狭いほど、そういったイメージが残るせいか利用がはばかれることがあります。フローラ食堂では、貧困世帯への支援にとどまらず、地域の子どもの健全育成という視点から子ども食堂を開催しています。月に1回でもお母さんやお父さんの家事の負担を減らし、子どもとの和やかな時間を食事の場を通して過ごしていただき、家族の笑顔を広げ、子どもの健全育成につなげていきたい。」とのお声をいただきました。



【すふうん食堂（高畠町）】

「特定非営利活動法人すふうん」では、毎月第3金曜日に高畠町総合交流プラザにて地域食堂「すふうん食堂」を開催しています。毎月ボランティアも含め20人程度の運営スタッフで開催しています。ボランティアの中には地元の高校生もおり、さまざまな年代の協力者により運営されています。現在は新型コロナウイルスの影響もあり、お弁当の配布のみを行っており、毎回約200食のお弁当を準備しています。地域食堂ということで、子どもだけではなく高齢者の方の利用も多数いらっしゃいます。すふうんでは、地域食堂のほかにも学習支援も行っており、小学校でタブレットを活用した授業が展開されていることから、タブレットの使い方等について学ぶ機会も提供しています。

すふうん食堂では、現在町内1か所でのみ開催をしておりますが、距離的・時間的等の問題から支援が行き届いていないのではないかと感じ、少しでも多くの人々の助けになりたいとの思いから、今後は町内全6地区で活動を展開していきたいと考えています。



【プチュナイテッドアスリートクラブ（山形市）】

「特定非営利活動法人プチュナイテッドアスリートクラブ」では、フリースクールや子ども食堂、学習支援、生活支援などを通して、不登校や引きこもり気味で家から出ることが困難な方が次のステップへの一歩となるように医療機関等とも連携しながら支援を行っています。子どもたち、一人一人に合わせてマンツーマンで寄り添いながら支援をしており、子どもたちが家から出ることができない場合はスタッフが家まで訪問し外出できるようにサポートを行ったり、保護者からの悩み事についてはメールやLINEなどのSNSで相談対応をしています。

2月25日（木）は、小学生や高校生など6人が利用していました。子どもたちはスタッフと一緒に料

理の配膳や盛り付けを手伝いながらみんなでお昼ご飯の準備をしていました。また、子どもたちとスタッフが一緒にトランプなどを楽しみながらお互いにコミュニケーションを深めていました。そのほか、プチュナイテッドアスリートクラブでは、さまざまなことを利用者に経験してもらうため、屋外でのスポーツや畑仕事、陶芸等を体験する機会を提供し、学びの場を広げています。



子ども食堂は毎日開催しています。和やかな雰囲気の中、和気あいあいとしながら、子ども達とスタッフが一緒に食卓を囲んでいます。

【地域食堂「楽（らく）」（山形市）】

山形市にある「山形でのひら支援ネット」では、平成 28 年 7 月より地域食堂に取り組んでおり、現在は、月 2 回、ファミリーマート小白川 3 丁目店の 2 階で、地域食堂「楽（らく）」を開催しています。運営にあたっては、町内会や学校、企業等と連携し、食材やボランティア等の協力を得ながら取り組んでいます。

最近、新型コロナウイルスの影響もあり、参加者同士で食卓を囲むことが難しく、主に弁当や食材の提供のみの時もありましたが、2 月からは食堂も再開しています。2 月 22 日（月）に行われた地域食堂では、事前に申し込みがあった 18 家族 58 食分の弁当や食材が用意されました。



今日のメインメニューは、赤飯と豚汁です。参加者は、お鍋やタッパーを持参し、温かい食事をテイクアウトしていきます。



そのほか、参加者にお渡しするお米やパン、野菜・果物、レトルト食品、缶詰、お菓子、生活用品などは、企業や個人、フードバンク活動団体などから提供いただいたものです。

ひとり親家庭や障がいを持つ子どものいる家庭、一人暮らし高齢者など、参加者が抱える課題はさまざまですが、スタッフは一人一人に気を配りながら、笑顔で参加者に接しています。

参加者同士もお互いの状況が気になるようです。「〇〇さん、もう来ました?」「〇〇さん、元気でした?」と、スタッフにたずねる参加者も多く見られます。早くコロナが終息し、またみんなで食卓を囲める日がくるのが待ち遠しいところです。

「山形でのひら支援ネット」では、今後も地域食堂の活動を通じて、子どもから大人まで、みんなで交流できる居場所づくりの輪を広げていくこととしています。

- ・子ども食堂を開催したい
 - ・子ども食堂へ食材や寄付金などの支援したい
 - ・子どもの居場所づくりについて相談したい
- などのご相談があればお気軽に山形県子どもの居場所づくりサポートセンターまでお問合せください!

山形県社会福祉協議会
山形県子どもの居場所づくりサポートセンター
TEL: 023-641-0561 FAX: 023-626-1623
E-mail: kodomosc@ymgt-shakyo.or.jp
URL: <http://www.ymgt-shakyo.or.jp>